慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	日本語のあいさつ表現に対するタイ人の理解について
Sub Title	A study on the understanding of Thais toward Japanese greeting expressions
Author	Kanok, Singkarin
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1996
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.71, (1996. 12) ,p.1- 24
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00710001-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

日本語のあいさつ表現に対するタイ人の理解について

カノック　シンカーリン

一　研究のきっかけ

言葉を勉強するためには音声、文字、文法などを学ぶだけではなく、その国の文化や社会的な背景を十分に理解する必要がある。日本語には、日常生活に使われているあいさつ表現にさえ、とても複雑な用法があることに気付かされる。まず、初めて人に会った時、また再び会った時などの一定のあいさつが終わってから、話は本題に入る。けれども、時には、本題の途中で再びあいさつに属するものが登場すること、たとえば、以前のことに触れてお礼を言ったり、家族の人の代わりにお礼を言ったりすることがある。従って、タイ人の日本語学習者にとっては、どこまでがあいさつなのか、どこからが本題なのかというあいさつの領域を理解するのが困難なのである。

そこで、一九九二年度の修士課程論文として、特にタイ人がよく理解できない「お世話になります／なっています／なりました」「おかげさまで」「よろしくおねがいします」という三つの表現の使い方を研究した。この三つの表現を中

心に研究した理由は、次の三点である。

(1)「お世話になります／なっています／なりました」は、日本人がよく使う表現であり、例えば、知り合いに電話をかけると、相手の奥様が、たいてい「いつもお世話になっています」と言う。けれども、タイ人は具体的に何もしてあげたことがないのに、お礼を言われるのは不自然だと思い、たいてい文字通りに解釈してしまうのである。

(2)「おかげさまで」は、時々、相手が別に何かをしてくれたわけでもないのに言うことがあるが、これはほとんどのタイ人が理解できにくい表現である。

(3)「よろしくお願いします」は、例えば、初めて知り合った相手なのに「どうぞよろしく」と言うのは、相手を頼りにしようとするのではないかなどと日本語を学ぶタイ人の多くが誤解するのである。

修士論文は、この三つの表現が堀江「2」における中間的表現に相当するかどうかを明らかにすることを目的とした。つまり、堀江によれば、タイ人と日本人の話し手の言語表現は次の三つのカテゴリーに分類される。

1あいさつ　日常生活に幅広く使われる

2中間的表現　実質的会話とあいさつの中間、あいまいで、どちらにも解釈できるもの

3実質的会話　本当の内容と情報を伝える

結論としては、この三つの表現は、堀江の言う中間的表現、すなわちあいさつに解釈できる場合も、実質的会話に解釈できる場合もあるというカテゴリーに相当すると言える。更にタイ語と比較してみた結果、タイ語では同じ様な表現が使われていないことがわかった。またその後、次のような問題点に気付いた。

(1)　自分自身は以上の三つの表現の使い方が理解できても、日本人のように違和感なく使うことができない場合があ

る。なぜなら、やはり文字通りに解釈する習慣がぬけないからである。

(2) 周りにいるタイ人留学生に聞いてみると、やはり大部分はこの三つのあいさつ表現を正しく使えないようである。

以上の二つのきっかけから、直接に日本文化に触れている在日タイ人留学生と日本に来たことのないタイ人日本語学習者の二つのグループを対象にして、この三つのあいさつ表現に対してどう思っているのかを調査した。二つのグループの考え方に相違点があるかどうか、あるいはあれば、どのぐらいの差があるかなどの点について検討してみたい。

二 研究の目的

本研究では、以下のようなことを目的としている。

(1) タイ人は、「いつもお世話になっています」、「おかげさまで」、「よろしくお願いします」の三つの表現をどういうふうに訳すのかを調べる。つまり、タイ語に訳す際に、日本語のように一つの決まり文句があるのか、またはいろいろな表現に訳せるのかを明らかにする。

(2) これらの表現を日本人が使う場面を設定し、タイでは同じ状況でどのような表現を使うかを検討する。

(3) (2)のような場面を設定し、タイ人はそれをどのように理解するかを観察する。

なお、(2)及び(3)の場面設定にあたっては、日本の小説などの文献における用例や自分自身の経験に基づいて、特にタイ人の理解できにくい例を挙げた。

三　研究の方法

当初は、一般的な結論を得るために量的なアンケートをタイ人に回答してもらうような計画をたてたのだが、アンケートを作って一部のタイ人に回答してもらったところ、大ざっぱな回答がほとんどであった。更に、後に再びインタビューしてみると、また違った結果が出てきたのである。従って、本研究ではインタビュー調査を用いることにした。インタビューの対象は性別にこだわらず、次のように二つのグループに分ける。

・日本に在住しているタイ人留学生。これは日本にいる最も多いタイプのタイ人である。以下、このグループを「タイJ」とする。

・日本に来たことがなく、かつ日本語を四〇〇時間以上（平均週三回で、一回に三～五時間）習ったタイ人日本語学習者。その理由は、タイの上級クラスの学生でないと、この三つの表現が理解できないと考えられるからである。以下、このグループを「タイT」とする。

それぞれのグループにおいて、各二四人を対象とし、インタビュー調査を行った。インタビューの方法は一対一の場合及び、四～五人のグループインタビューの場合がある。そのすべての過程及び結果をテープに収録した。

四　インタビュー結果

四・一　概要

タイJ

性別　男／女　　職業　学生　教員　公務員　会社員

10／14　　16　3　2　3

平均年齢　二二・五才

タイにおける日本語学習歴平均　二年

日本における日本語学習歴平均一・五年

在日期間平均一・五年

タイT

性別　男／女　　職業　学生　会社員

19／5　　11　13

平均年齢二三才

タイにおける日本語学習歴平均四年

四・二　「いつもお世話になっています」

一九九二年度の修士課程論文で研究したところによれば、「いつもお世話になっています」の方が「お世話になります」と「お世話になりました」よりも日本人の日常会話によく使われると考えられるため、本研究では「いつもお世話になっています」を中心に調査を行った。

まず、インタービュー対象のタイ人に、「いつもお世話になっています」がどういう意味をもっているかと質問した答えを日本語に直訳すると、以下のようになる。（ただし、回答の結果を示すには、J（タイJ）及びT（タイT）と

それぞれの回答数で表わす。）

1いつも手伝っていただきました。（J5）（T2）
2いつも愛護していただきました。（J2）（T2）
3いつもご面倒をかけました。（J2）
4いつもいろいろやって下さって、どうもありがとうございます。（J3）（T1）
5いつも手伝って下さって、どうもありがとうございます。（J3）（T9）
6ずっとご親切にして下さって、どうもありがとうございます。（J6）（T1）
7いつもご恩恵を思っています。（J1）
8いつも心配したり面倒を見たりしてくださってどうもありがとうございます。（J1）（T5）
9いつもご迷惑をかけて、どうもすみません。（J1）（T2）
10ずっと支持してくださって、どうもありがとうございます。（T1）
11訳せない。（T1）

以上の回答に見られるようにタイJの回答の中で最も多いのは、「ずっとご親切にして下さって、どうもありがとうございます」（六人）であった。一方、タイTの答えは「いつも手伝って下さって、どうもありがとうございます」が目立っている（九人）。調査の結果を総合的に見ると、タイJの場合はこの表現を様々に訳し、ほとんど決まりがないと言える。これに対して、タイTの方は、共通点があるように見えるが、他の八種類の回答を含めて考えると、タイTの場合にも、この表現が特定の訳し方をもっていないと結論できる。ただし、回答に共通点が存在する理由はおそらくタ

イ人の教師に訳し、説明してもらったままに覚えたからだと考えられる。

次に、配偶者の上司と初めて会う場面を設定し、タイ人はどのようにこの表現を理解するかを詳しく調べるために、次の三つの条件を挙げた。

1　直接の上司ではない場合

項目1

(ア)　あなたは急用で、夫または妻の会社まで訪ねて行った。二人が話している間に、夫または妻の直接の上司ではない部長が通りかかった。夫または妻がその部長にあなたを紹介したら、その部長の話を聞いたこともないあなたは何というか。

1 sawatdii[1]。（J12）（T14）

2 sawatdii＋知り合えてうれしいです。（J9）（T5）

3 うなずく、あるいはにこにこする。また年上の人であれば「ワイ」（合掌）をする。（J1）（T1）

4 sawatdii ＋ ○○（自分の名前）です。（J2）（T4）

(イ)　上と同様な場面が日本で起こり、日本人のご主人または奥さんが、「主人／家内がいつもお世話になっています」と言ったら、あなたはどう思うか。

1 最初は、このような言い方は必要ないと思ったが、今は日本の習慣であるため、言わなければならないとわかるよ

うになった。（J5）

2日本の習慣であって、言わなければならないとわかるようになった。礼儀のためだけれども、何の意味も持っていない。（J7）

3何の意味も持っていないので、言う必要がない。（J2）

4お世辞を言っていると感じ、真心を持っていない。（J6）（T5）

5もし本当に心から言われれば、非常に暖かい気持ちを味わえて、良い表現だ。自分がそれを言うときには、お世辞ではなく本当のことだけに使う。（J2）（T9）

6ご主人の仕事を侵略する気がする。（J1）（T1）

7形式的すぎる。（J1）（T2）

7日本人は自分の主人か奥さんのために力になりたいと思ったら、それを言うべきだ。（T7）

項目一の（ア）では、タイJとタイTは「sawatdii」をよく使う（J一二人／T一四人）と答えた。タイ人はだいたいにこにこしながら、「sawatdii」と言うのと同時に相手が年上であれば、「ワイ」、すなわち合掌をするのが一般的である。また、その他には、何も言わずにうなずいたり、にこにこするか、年上の人であれば、「ワイ」をすると答えた人がいる（J一人／T一人）。ここでわかったことは、配偶者の直接ではない上司に初めて会ったとき、ほとんどのタイ人は「sawatdii」を使うが、言葉なしで、行動だけによってあいさつすることもできるのである。そして、配偶者に言及することはほとんど見られない。

また、(イ)の質問に対し、多くのタイJ（一二人）は日本の習慣であって、礼儀のために言わなければならないと答え

た。一方一〇人のタイJは、マイナスの方に考え、例えば、「何の意味も持っていないので、言う必要がない」（J二人）、「お世辞を言っていると感じ、真心を持っていない」（J六人）、「ご主人の仕事を侵略する気がする」（J一人）「形式的すぎる」（J一人）などと答えた。つまり、ここで言えることは、この場面ではタイJは二つのグループに分けることができる。すなわち、

(1)日本文化に直接に触れたため、日本文化に慣れ、この場面で使われた「いつもお世話になっています」を文字通りの意味を持っていないあいさつとして理解するグループ。

(2)日本文化に直接に触れてもこの場面で使われた「いつもお世話になっています」を文字通りに解釈するグループ。

一方、タイTの多くは、「もし本当に心から言われれば、非常に暖かい気持ちを味わえて、良い表現だ。自分がそれを言うときには、お世辞ではなく本当のことだけに使う」（T九人）、「日本人は自分の主人か奥さんのために力になりたいと思ったら、それを言うべきだ」（T七人）などと答え、文字通りの意味をもっているかどうかを考える傾向がある。従って、事実に即した場面（実際に世話になったことがあること）であれば、違和感なく使えるが、事実に反していれば、この表現を使わない傾向があると考えられる。

2　直接の上司だが、自分の配偶者に対して好意を持っていない場合

項目2

(ア)　あなたは急用で、夫または妻の会社まで訪ねて行った。二人が話している間に、夫または妻の部長が通りかかった。夫または妻がその部長にあなたを紹介する。その部長の悪口を聞いたことがあるあなたは何というか。

1 sawatdii°（J11）（T14）

2 sawatdii＋知り合えてうれしいです。（J6）（T5）

3 sawatdii を言うが、あまりにこにこしない。（J3）（T2）

4 うなずく、あるいはにこにこする。年上の人であれば「ワイ」をする。（J1）

5 主人／家内からいつもあなたの話を聞いたと皮肉のように言う。（J2）（T3）

6 sawatdii＋○○（自分の名前）です。（J1）

(イ) (ア)と同様な場面が日本で起こり、日本人のご主人または奥さんが、「主人／家内がいつもお世話になっています」と言ったら、あなたはどう思うか。

1 非常に礼儀が正しい。こんなに自分を謙遜する日本人は心が広い。（J5）（T4）

2 好きではない。なぜ嫌いな人にお礼を言うのかさっぱりわからない。ご機嫌をとるために言うのかあるいはお世辞を言うのかと思う。他の言い方がないのか。（J11）（T15）

3 がつまるような感じ。（J1）

4 タイ語の sawatdii みたいに使われているようで、あまり意味を持っていない。けれども、自分はぜったい使わない。（J6）（T5）

5 皮肉のように聞こえる。（J1）

項目二の(ア)では、タイJとタイTのあいさつはあまり項目一の(ア)と変わらないが、にこにこしないといった行動の変化が多少見られる（J三人／T二人）。従って、好意を持っていない相手に初めて会ったときにもタイ人のあいさつ行動

は、ほとんど中性的であり、相手に対して利害得失を表わさない傾向があると考えられる。そして、自分の配偶者にはあまり言及しないことがわかる。

また、(イ)の質問に対し、タイJとタイTはともに、この場面での使い方はあまり好ましくないと答えた（J一一人／T一五人）。つまり、真っ赤な嘘だと考えるのである。タイJの六人とタイT五人は「sawatdii」と同じように解釈するが、この場合、自分では絶対この表現を使わないと答えた。そこで、結論的に言えるのは、少数のタイJとタイTはこの場面に使われた表現が礼儀上のあいさつであるとわかるが、ほとんどのタイ人は事実と正反対だという考えがあるので、この場面で「主人／家内がいつもお世話になっています」と言えない傾向が強いと考えられる。

3　直接の上司であり、自分の配偶者に対して好意を持っている場合

項目3

(ア)　あなたは急用で、夫または妻の会社まで訪ねて行った。二人が話している間に、夫または妻の部長が通りかかった。夫または妻がその部長にあなたを紹介する。その部長について誉め言葉を聞いたことがあるあなたは何というか。

1 sawatdii＋主人がいつもあなたに手伝ってもらったことを話している。（J9）（T11）

2 sawatdii'　そして部長の家族のことなどを尋ねて気を使うことを表わす。（J1）

3 sawatdii＋知り合えてうれしいです。そして親しみを表わすように色々話しかける。（J7）（T3）

4 sawatdii そして行動で好意を表わす。（J2）（T4）

5 sawatdii°（J5）（T6）

(イ) (ア)と同じ様な場面が日本で起こり、日本人のご主人または奥さんが、「主人／家内がいつもお世話になっています」と言ったら、あなたはどう思うか。

1本当のことなので、場面にふさわしい表現だ。(J20)(T24)

2単なる礼儀で、もっと詳しいことを加えてお礼を言うべきだ。(J3)

3このようなあいさつ表現よりもっと心をこもった表現を使ったほうがいい。(J1)

項目三の(ア)では、自分の配偶者に言及し、いつも手伝ってもらったことを話しているという答えが最も多かった(J九人／T一一人)。これは、タイの社会では、「sawatdii」だけを言うのではなく、親しみを表わすためにいろいろ話しかける傾向が多く見られるためである。しかし、タイ語でお礼を表わす「khoop khun」(どうもありがとうございます)のような言葉は使わない。また、言葉で表わさず、行動で好意をあらわす(J二人／T四人)場合もある。つまり、タイ人は実際に相手の世話になった場合、具体的なお礼の言葉を言うよりも、相手にいろいろ話しかけて気を使うことや行動で表わすのが一般的なのである。

また、(イ)の質問に対し、タイT(二四人)全員は、本当のことなので、場面にふさわしい表現だと答え、この場合の表現を受け入れることができる。タイJのほとんどもこの場面で使われた表現を受け入れられるが、まだ物足りないという答えもある(四人)。すなわち、タイJが在日中に経験した場面で使われたこの表現は、ほとんど意味をもっていないあいさつが多かったために、実際に世話になったならば、もっと適切な、あるいは真心のこもったお礼を言ったほうがいいのではないかと答えたのである。従って、この場面でタイTはこの表現を使えるが、ある部分のタイJは他のお礼の表現を使うか、この表現と一緒にまた別のお礼の表現をも使うと考えられるのである。

四・三　「おかげさまで」

インタービュー対象のタイ人に、「おかげさまで」がどういう意味をもっているかと質問した答えを日本語に直訳すると、以下のようになる。

1どうもありがとう。（J6）
2御権勢と恩恵で、御盛徳で。[2]（J4）（T11）
3あなた様の陰で。[3]（J2）（T1）
4仏様の保護で。（J1）（T1）
5ご協力によって。（J1）（T4）
6あなたなので（Beacause of you）＋良い出来事。（J4）（T6）
7御善業で。[4]（J1）
8自分の幸運と御恩恵で。（J2）
9御心配してくださって、どうもありがとうございます。（J1）（T1）
10　御面倒で。（J1）
11　意味がよくわからない。（J1）

タイJの回答の中で最も多いのは、「どうもありがとう」（六人）と「あなたなので（英語訳：Because of you）＋良い出来事」（四人）であった。一方、タイTの方は「御権勢と恩恵で、御盛徳で」（一一人）という答えが最も多かった。ここで言えることは、タイJはある程度文字通りの意味を考えず、場面によって解釈する傾向がある。タイTは限られ

た場面を経験した結果、また、タイでの学習の仕方がこの表現が使われた場面を説明するよりも、翻訳のやり方を中心にした結果、この表現を使えなくなると考えられる。

項目4

(ア) あなたが偶然に高校時代の先生と久しぶりに会って、先生があなたに「元気？」と聞いたら、あなたは何と答えるか。

1はい、元気です。（J3）

2はい、元気です。先生は？（J18）（T21）

3まあまあです。（J1）

4元気です。どうもありがとうございます。（J2）（T3）

(イ) (ア)と同じ様な場面が日本で起り、日本人が先生に「ええ、おかげさまで、元気です」と答えたら、あなたはどう思うか。

1日本人の習慣だとわかったが、何の意味もないので、自分自身はあまり使いたくない。タイ人の間で使えば、大げさだと言われるはずだ。（J11）（T7）

2目上の人に使うのはいいけれど、目上の人に言われたら、おかしいと思う。自分も目下の人には使わない。（J7）（T13）

3何の意味もないので言う必要がないのではないか。（J2）（T1）

4お世辞をいうと解釈されるかもしれないので、あまり使いたくない。（J1）

5礼儀と報恩感謝を表わすため。（T3）

6「元気です」と言うよりていねいだと思う。（J3）

項目四の(ア)では、ほとんどのタイJとタイTの答えは「はい、元気です。先生は?」（J一八人／T二一人）であった。タイ人にとっては、相手に質問を返すことが思いやりを表わすので、お礼のような言葉は言わなくてもいいと答えた。また、(イ)の質問に対し、タイJとタイTの回答は「日本人の習慣だとわかったが、何の意味もないので、自分自身はあまり使いたくない。タイ人の間で使えば、大げさだと言われるはずだ」（J一一人／T七人）とか「目上の人に使うのはいいけれど、目上の人に言われたら、おかしいと思う。自分も目下の人には使わない」（J七人／T一三人）であった。ここで明らかなのは、多くのタイJとタイTは、日本人の習慣だと理解できると答えたが、何となく文字通りの意味に解釈していることである。この表現の意味をタイ語に訳すと、非常に強い意味になるので、使いにくくなる可能性があると考えられる。そして、タイ人の考えでは、権勢と盛徳をもっているのは、目上、または、自分よりずっと立場が高い人に限られるので、この表現を使うのは、目上に対してだけだと思い、目下には絶対使わないと解釈してしまう傾向が強いのである。

項目5

(ア)　あなたは親しくない同級生とエレベーターの中で会った。その友達はあなたの弟が受験したことを知っていたので、「弟さんの受験どうだった?」と聞いたら、あなたはどう答えるか。

1受かった。（J12）（T12）

2受かった。心配してくれてありがとう。（J4）（T3）
3運が良くて、××大学に受かった。（J5）
4××大学に受かった。（J2）（T9）
5問題ないよ。（J1）

(イ)　(ア)と同様な場面が日本で起り、日本人が「ええ、おかげさまで、受かった。」と答えたら、あなたはどう思うか。
1おかしい。全然関係ないのに。もし家庭教師になってくれたことがあったら、言うべきだけど。（J11）（T13）
2おおげさ。お世辞がうますぎる。（J1）（T3）
3日本の社会では言わなければならないかもしれないが、あまりにも理屈が通らないので、自分は使わない。（J6）（T2）
4「心配してくれて、ありがとう」と解釈して、認められる。が、自分は使わない。（J3）（T3）
5冗長な表現だと聞こえる。（J1）（T2）
6非常に自分を謙遜したいから。東大に受かったなら言う必要があるが、有名ではない大学に受かった場合、この表現を使わないかもしれない。（J2）（T1）

項目五の(ア)では、タイ人の答えは、「受かった」（J一二人／T一二人）が最も多かった。また、九人のタイTは「どこどこの大学に受かった」と答えた。この場合には、タイ人は日本人のようにウチとヨソの意識がないため、この答えはごく普通の質問に対する答えだと考えられる。また、ある部分のタイJは「受かった。心配してくれて、ありがとう」（J四人）とか「運が良くて、××大学に受かった」（J五人）と答えたが、それは多少日本語の影響があると考えられ

る。

また、(イ)の質問に対し、多くのタイJとタイTは、「おかしい。全然関係ないのに。もし家庭教師になってくれたことがあったら、言うべきだけど」（J一一人／T一三人）と答え、この場面で使われた表現を受け入れられなかったのである。その理由は、この表現を文字通りの意味に解釈し、この場面にはふさわしくないと思っているからである。タイT（六人）の方がタイJ（二人）より多く、これは日本の習慣だと認めているが、自分は使わないと答えた。したがって、文字通りに解釈する習慣とウチとヨソの意識をもっていない社会背景とが原因で、このような場面では、タイ人はこの表現を使わない傾向が強いのである。

四・四　「よろしくおねがいします」

日本語には自己紹介のときに使う「よろしくおねがいします」や何かを頼むときの「よろしくおねがいします」などがあるが、ほとんどのタイ人が使いにくいのは、自己紹介の場合である。

インタービュー対象のタイ人に、自己紹介の場合の「どうぞよろしくおねがいします」は、どういう意味をもっているかと質問した答えを日本語に直訳すると、以下のようになる。[5]

1私の体を寄りかからせてください。（J14）（T19）

2知り合えてうれしいです。（J5）

3親切にしてください。（J5）（T5）

タイ人の回答者四八人に「よろしくおねがいします」の意味を聞いてみると、「私の体を寄りかからせてください」（J一四人／T一九人）という答えが最も目立っている。つまり、これは日本語学習者の最初に習ったパターンなので、

タイJでもおそらく日本に来る前にタイ人の教師に訳し、説明してもらった影響が強いと考えられる。ただ、その他にも「知り合えてうれしいです」（J五人）、「親切にしてください」（J五人／T五人）という答えがあるため、「よろしくおねがいします」にはタイ語の決まり表現がないと言える。

項目6

(ア) あなたはパーティへ行って、一人の友達がだれかと話しているのを見かけた。その友達に話があるので、あいさつをしに行った。すると、友達が彼と一緒にいる人を紹介したとき、あなたはその人に何というのか。

1 自分の名前を言う。（J1）

2 sawatdii、○○です。（J6）（T7）

3 sawatdii、知り合えてうれしいです。（J7）（T9）

4 sawatdii。（J8）（T7）

5 sawatdii＋相手のこと、例えば、仕事などを聞く。（J2）

6 にこにこする。（T1）

(イ) (ア)と同じ様な場面が日本で起こり、日本人が「はじめまして、○○です。どうぞよろしくお願いします。」と言ったら、あなたはどう思うか。

1 日本の習慣で、将来の人間関係のため、自分のイメージを作る。自分はこれからの関係を考えて、目上の人だったら、全部を言うが、これからあまり関係ないと思ったら、「はじめまして」だけを言うのが多い。（J17）（T10）

2 本当の意味はよくわからない。教科書通りに使っている。（J2）（T5）

3これから相手は自分に親切にしてくれるだろうと思うので、とても良い表現だ。（J5）（T9）

項目六の(ア)では、タイ人の答えは「sawatdii＋自分の名前で、○○です」（J六人／T七人）または、「sawatdii　知り合えてうれしいです」（J七人／T九人）などであった。

また、(イ)の質問に対し、タイ人の最も多かった回答は、「日本の習慣で、将来の人間関係のため、自分のイメージを作る。自分はこれからの関係を考えて、目上の人だったら全部を言うが、これからあまり関係ないと思ったら「はじめまして」だけを言うのが多い」（J一七人／T一〇人）であり、次に多かったのは、「これから相手は自分に親切にしてくれるだろうと思うので、とても良い表現だ」（J五人／T九人）であった。これらの回答からわかることは、タイJとタイTはこの表現を使うことができるが、これから自分は相手をたよりにする立場であるという条件が必要である。そうでなければ、「はじめまして」だけを使う。さらに、タイTの方がその表現に期待すると言う答えが多いため、やはり文字通りに解釈していると考えられる。また、「本当の意味はよくわからない。教科書通りに使っている」（J2人／T5人）という答えがあるように、この表現の意味をよくわからないタイTの方がタイJより、そのままこの表現を使えると考えられる。

項目7

(ア)　あなたが初めて大学の先輩と会ったとき、何と言って自己紹介をするか。

1 sawatdii＋○○です。（J15）（T13）

2 sawatdii＋○○です。××高校から来ました。（J5）（T7）

3自己紹介がなくて、話し合いながらという形で。（J1）（T3）

4 sawatdii＋○○です。なにかあったら、アドバイスしてください。（J3）（T1）

(イ)　(ア)と同じ様な場面が日本で起こり、日本人の後輩が「はじめまして、○○です。どうぞよろしくお願いします。」と言ったら、あなたはどう思うか。

1日本の習慣で、言わなければならない表現だ。が、タイ人同士ではこのような表現は使わない。なぜならば、相手に頼りにすると思われてしまうからだ。（J8）（T2）

2お互いに頼りにする可能性が多いので、言うべきだ。（J13）（T15）

3丁寧すぎて、よそよそしく聞こえるが、先輩を頼りにするために、前もって言っておいたほうがいいと思う。（J3）（T7）

項目七の(ア)では、ほとんどのタイ人は、「sawatdii＋自分の名前で、○○です」（J一五人／T一三人）または、「sawatdii＋○○です。××の高校から来ました」（J五人／T七人）などと答えた。つまり、先輩という将来頼りにする可能性が多いとみられる人に対しても、項目六の(ア)と同様に、多くのタイ人の自己紹介は単なる「sawatdii」を使うのが一般的である。

また、(イ)の質問に対し、タイJとタイTの最も多い答えは「お互いに頼りにする可能性が多いので、言うべきだ」（J一三人／T一五人）であった。この場合、タイ人はこの場面で使われた表現を聞いて、違和感を感じないが、相手は自分に対して頼りになるかどうかを先に考えて、この表現を使うか否か決める傾向があると考えられる。

五　結論

上述の結果をまとめると、以下の結論が得られる。

一　調査した結果では、タイJの方がタイTよりこの三つの表現を中間的表現に解釈できるように見える。これは、日本に住むことによって、直接に文化に触れたからだと考えられる。ただし、タイJが理解はできても、自分自身ではこの表現を使えない場合がある。その理由は、

・自分の国の文化、習慣を乗り越えられない。

・タイ語に訳す習慣がある。この場合は、日本語教育に問題があると言える。つまり、このような表現を教えるときは、文を訳すのではなく、これらの表現には文化の背景があるので、場面を取り上げ、その背景を説明する方が有効だと考えられる。

また、場合によっては、タイJの方が在日中に経験した場面で使われた表現が、ほとんど意味をもっていないあいさつだったために、実質的会話、すなわち事実に即した事柄の場面にこのような表現を使うとふさわしくないと思って、使えない場合もある。

一方、タイTはこの三つの表現を実質的会話に解釈する傾向が強く見られる。つまり、事実に即した事柄の場面だけにしかこれらの表現を使えないのである。しかし、場合によっては、この三つの表現の意味がよくわからないため、そのままこれらの表現をあいさつとして使えることもある。

二　中根千枝[3]によれば、「日本人の集団構成の原理は、場によるもの、すなわち、一定の地域とか、所属機関を優

先するので、自己と所属機関を一体化して、「ウチ」とし、それ以外は「ヨソ」とする。日本人は家族内外の人間関係をもこの「ウチ」と「ヨソ」の二つのカテゴリーで把握している」という。本研究で対象とした日本語のあいさつにおいても家族の人に言及したり、家族の人の代わりにお礼を言ったりすることが見られたが、これは中根の論を援用すると理解しやすい。つまり、この三つの表現には集団意識に基づいたウチとヨソの概念が明らかに見られるのである。それに対してラッチャニーコーン[4]によれば、「タイ人の価値観は個人的意識（personalism）を重要視する」ということだが、タイ語のあいさつにも個人的意識が強く表われていると考えられる。

三　本研究で取り上げた日本語のあいさつの背景には相互依存の意識を重視することがある。目上と目下という違った立場であっても、お互いに相手を頼りにすることを表わすのが、日本の社会の独特な文化だと言える。これに対して、タイ人はあいさつにおいて相互依存の意識を表わすことを美徳だと考えず、「ton pen tii puŋ hɛŋ ton」（原意：頼りになるのは自分だけ）という諺があるように、自分の独立性を示すことが重要である。しかし、タイ語は、日本語のように中間的なあいさつをもっていないわけではない。例えば、「pai nai maa」（原意：どちらへ）または、「wannii suai jaŋ」（原意：今日はきれいですね）などのように文字通りには解釈できない場合もある。ただ、日本語とはあいさつの重視点が違うために、タイ人の理解が困難になるのである。

また、総合的な結論として、以下の図一が得られる。

図一に見られるようにタイ語にも日本語にもあいさつと本題との重なる部分、すなわち中間的表現があるが、この重なる部分の重視点が異なるため、タイ人と日本人とがお互いに誤解してしまう可能性があると考えられる。

以上、限られた時間と限られた人数の対象者で研究した結果ではあるが、プライマリーな研究としてタイ人はこの三

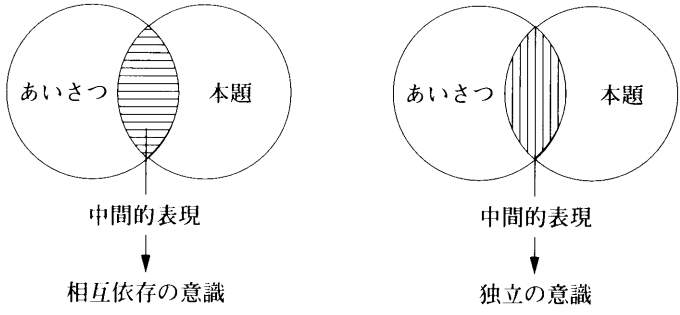

図1　日本語・タイ語の会話におけるあいさつ表現の相違点

つのあいさつ表現に対してどのような問題をもっているのか、その原因は何かといった問題点を取り上げた。日本語の諺に「郷にいれば、郷に従え」があるように、外国人が日本語を習うとしたら、何も考えないで、日本人をまねればいいのではないかという声があるかもしれない。しかし、外国人は日本に来ても自分の国の習慣などを忘れるわけには行かないため、郷にいっても、郷に従いにくいということになる。従って、お互いに擦れ違いを理解しあうのが一番いい解決方法なのではないかと考える。

注

（1）sawatdii とは、平安・安楽・幸福という意味をもっているタイ語のあいさつ表現で、日本語のおはよう、こんにちは、こんばんはなどに相当する。通常、にこにこしながら、これを言う。

（2）あなた様の有難いお恵みによりまして、またはあなた様の高貴なお人柄によりましてという意味。

（3）この場合の陰は木陰の意味であり、相手を木に例えている。

（4）仏教的な良いことをたくさんなさっているのでという意味。

（5）すべてあなたに頼らせてくださいという意味。

参考文献

［1］富田竹次郎、『タイ日辞典』、養徳社、一九八七

[2] 堀江　インカピロム　プリヤー「日本語とタイ語の行動における社会文化的相違」、国立国語研究所資料、一九九〇
[3] 南博編、『日本人の人間関係辞典』、講談社、一九八〇
[4] Rachaneekorn Settho, "Thai Social and Cultural Structure," Thaiwattanapanich Press, 1989